フィールドパートナー　自己紹介カード

「フィールドパートナー」とは　フィールドワークパートナーの略称。
水俣・芦北地域のフィールドで、史実に基づいて解説し、来訪者とともに考察します。
社会課題を自由に考えることを妨げない案内を心がけています。 since2011

名　前/ 永野隆文（ながのたかふみ）
出　身/熊本県阿蘇市
所　属/社会福祉法人くまもと障害者労働センター
　　エコネットみなまた
趣　味/料理（酒のつまみや弁当程度）

なぜフィールドパートナーをされているのでしょうか

エコネットみなまたの事業に、水俣病の教訓を伝える環境教育事業があります。水俣病事件にかかわりのある様々な場所の案内、被害を受けた人の話を聞いてもらうなど、現場で理解して、風化させることなく、思いを後世に伝えたいと思っています。住んでみて、被害者と身近に接して伝えられることは沢山あるので、フィールドパートナーは最適の仕事です。

あなたにとって、水俣の魅力はなんでしょうか

海がある事。その海で水俣病事件という世界の公害病が発生し、被害者自らが立ち上がり人権を勝ち取ることをしてきた街であること。そして、水俣病という負の遺産を価値あるものに転換させてきた被害者や市民が住んでいる町であること。豊かな自然と温泉に恵まれた街です。

子どもたちや若者たちに何を伝えたいと思って案内していますか

２点あります。1,水俣病事件は高度経済成長期に起きました。敗戦後、日本が豊かな暮らしを求める過程で貧しい漁村の自然や生き物が犠牲になりました。当時、多くの人たちはそうした犠牲や命より経済が豊かになることを選択しました。2,被害が拡大し公式確認後、12 年間排水を止めませんでした。多くの日本人が関心を示さず、「大量生産、消費、廃棄」の「豊かな」暮らしを続ける一方で被害者は苦しみ続けました。

若い人たちは、水俣から何を学んでほしいと思いますか

３点あります。1,被害を受けたものがたたかわないと、補償を受けられないとはどういうことなのか。加害者がやるべきこと。被害者への向きあい方。2,水俣病事件から学び、環境保護活動参加はもちろん、いま起きている社会の問題に関心を持ち、傍観者ではなく、意思表示をすること。かつて日本の南の辺ぴな場所で起きた出来事に多くの日本人は無関心で自分たちの暮らしが豊かになることを追い求めました。経済が発展するため犠牲は顧みられませんでした。3,暮らしのあり方を見直し視点を願っています。